

# もう一つのふるさとを訪ねて



## 白石城 —仙台藩家臣片倉家の居城—

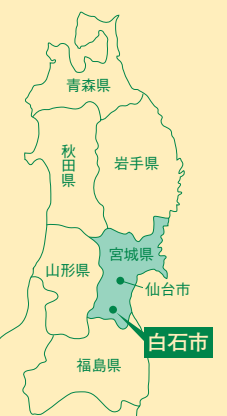
街の中心部にあり、城の周囲は益岡公園として市民の憩いの場となっている。現在の天守閣は平成7年に復元されたもの。城の再建に当たっては、白石区民有志も寄付を行っている

去る七月四日、白石区民ら百十四人が宮城県白石市への歴史探訪と地元交流の旅に出発した。白石城主片倉家の家臣たちが、現在の白石区に入植したのが明治四年。区民にとってもう一つのふるさとと言える白石市への旅は、新たな感動を生んだ。

**姉** 妹駅を復活させたい。この旅のきっかけとなったのは、二年前に区内の小学六年生の児童三人が、総合学習の過程で宮城県白石市に関心を持ち、同じ名前を持つ白石駅同士がかつて交流していたことを調べた時にさかのぼる。この子どもたちの夢を知った区内の街づくり団体「J.R白石駅周辺地区街づくり協議会」が企画に乗り出した。ちょうど開駅百周年を迎えた札幌の白石駅が、記念事業の一環として協力し、実現の運び

**寝** 台列車から降り立つと仙台駅のホームには、朝のまぶしい太陽の光が差していた。九十二歳のお年寄りから四歳の幼児まで、総勢百十四人の一行は三台のバスに便乗して白石市に向かう。昨晩まで降っていた雨が止んだと聞かされ参加者の機嫌も上々だ。約一時間もすると、人口四万人余りの白石のまちが見えてきた。

白石市位置図



## 傑山寺 —片倉家の菩提寺—

街の中心部、白石城の南に位置する傑山寺は、片倉家の菩提寺であり、初代片倉小十郎景綱の墓所などがある。また、片倉家家臣の佐藤孝郷らが北海道移住を決意した地でもある



◀寺で朝食を済ませた後、住職が境内を案内してくれた。無縁仏の多くが移住関係者であるとの説明に手を合わせる参加者も



▲傑山寺は慶長13年（1608）に開かれた。写真は本堂